

沿道狼多きも虎豹の類なし。拉薩には土人の外漢人、纏頭回人、カシミヤ人、印度人、蒙古人等多く住み、合計十餘萬人(疑は)と稱するも、人家は約二萬(疑は)に過ぎず。商人は大抵清語を解し、土人は清人と親善なるが、外國人の來るを喜ばざるが如く、清商はカルカッタよりシキムを経て來り、カルカッタ、拉薩間は、鐵道を利用して、尙ほ二十日の行程を要す。其の途中に二箇の嶺あるも、甚だ高からず、交通容易なり。又拉薩には約一萬の土人兵ありて、三年前以來より、其手に連發銃を製造す。印度土人兵は英國將校之を督し、拉薩を距る五日行程、ガンヅイに約百人を置けり。該商人は喇嘛僧服用の蝦茶色絨、金欄珊瑚眞珠布類を携行し、歸路には氈毯、茶、香料、綠寶石等を仕入れて歸る云々と。

### 第三節 ヒマラヤ山脈の跋涉

#### 一、「ダック、バンガロウ」

十月十五日、氣温午前三十三度、午後五十五度、連日の降雪漸く霽れ、馬匹(七頭を雇ふ。内二頭は乘馬とす。一頭一日平均一留比)其他の諸準備も悉く調ひしに因り、午前七時愈々レールを出發せり。